

学校給食セミナー×交流会「はじめよう！サステナブルな食を学校給食から！～先進事例に学ぶ～」開催について

【趣旨・目的】

- 学校給食における地場産物や有機農産物等（減農薬等、環境に配慮した農産物）の活用は、
 - ・ 若年層の地域の農業や食文化の理解・定着の促進
 - ・ 農林水産物に関連する環境負荷の軽減
 - ・ 生物多様性の大切さへの理解促進
 - ・ 地域経済の循環による地域振興 等の効果が期待できます。

- 第4次食育推進基本計画（抜粋）令和3年3月31日 食育推進会議決定（会長：農林水産大臣）
（学校給食の充実）

食生活が自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動の上に成り立っていることについて、児童生徒の理解を深め、感謝の心を育むよう、学校給食への地場産物活用に向けて、市町村が中心となり、食材需要に対応できる生産供給体制の構築などの供給者側の取組並びに地場産物の生産供給体制や地域の実情を踏まえた学校設置者及び学校等の取組の双方が重要であり、密接に連携・協働することが必要である。そのため、給食現場と生産現場の互いのニーズを調整する「地産地消コーディネーター」の養成や各地域への派遣など、生産側と学校側の連携・協働を推進するための取組を引き続き行い、多様な優良事例の普及の横展開を図る。

- 第4次食育推進基本計画での目標においても、学校給食における地場産物を活用した取り組み等を増やすこととしており、東海地域における学校給食での地場産物の使用割合（金額ベース）は、R元年度比で東海3県とも向上しています。
- 今後、さらに地場産物や有機農産物等の活用を進めるためには、生産者、消費者、行政等関係者の連携・協力が重要です。
- そこで、関係者が自主的に相互の理解を深め、課題について認識を共有し、対策を連携して検討する機会を提供する場として「学校給食セミナー×交流会」の開催を検討しています。
- 学校給食セミナーでは、講師からそれぞれの取り組みでの課題や課題克服のための工夫などの講演を予定しています。東海地域の「学校給食」「有機農業」に精通アドバイザーを迎え、毎回コメントをいただきながら、取り組みを推進します。
- 交流会では、セミナー参加者（希望者）同士で自由に情報交換や意見交換をしていただき、互いの協力に向けたネットワークづくりの機会を提供します。
- このほかにも、地場農産物等を学校給食で利用するための補助制度等がありますのでぜひご活用ください。

東海3県の学校給食での地場産物の使用割合
（金額ベース）

	R元年度	R3年度
岐阜県	57.5%	62.0%
愛知県	55.5%	58.9%
三重県	59.2%	59.5%
全国	52.7%	56.0%

（出典）文部科学省
「学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査」

【学校給食セミナー×交流会に当たっての考え方】

- ・ 地域の学校給食の在り方は、地域が自主的に決めるものであり、地域の皆さまが相互の理解を深め、連携できる体制を徐々に整えていくための取り組みです（東海農政局が、一定の期限を念頭に、政策的な判断を出すものではありません）。
- ・ 中長期的に発展していくよう、成功・失敗事例の共有を重視します。
（一過性とならないよう関係者間で連携しながら、交流をきっかけにネットワークを徐々に広げ連携できるシステムの構築を目指します）
- ・ 参加者の皆さまが協力して前向きな取り組みとなり、円滑に進められるようご協力をお願いします。

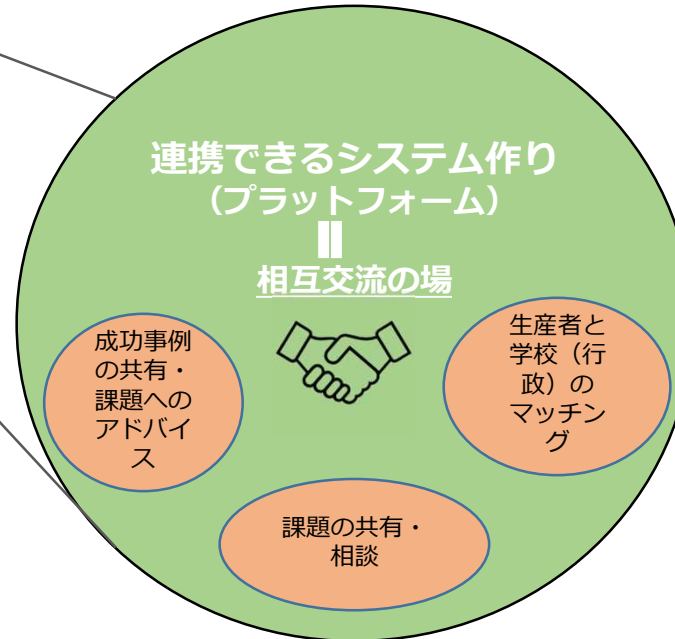
期待される成果のイメージ

◆複数回のセミナー×交流会を通じ、関係者間のニーズが高まれば、関係者間の交流を深め、随時情報交換・連携できるプラットフォームを**中長期的に段階的に作り上げていきたい**

組織力を活用して点から線・面へと
徐々に拡大

生産者・生産者団体
JA、生産者グループ、農家 等

消費者団体
学校給食について関心を有する消費者
団体 等



行政・職能団体等

- ・各県市町村 食育・農政関係部局
- ・教育委員会
- ・栄養教諭・学校栄養職員協議会
- ・学校栄養士協議会
- ・栄養士会
- ・食生活改善推進員協議会
- ・地産地消コーディネーター 等

取り組みの発展のイメージ

可能な範囲で
徐々に
取り組みを
進める

- ・関係者の合意があれば、メーリングリスト等を整備
- ・令和5年度以降 国の支援制度等の活用
- ・令和5年度以降 消費者の部屋における情報提供、発信（学校給食に関心のある有機農業者、地産地消コーディネーター、学校（栄養教諭等）、給食センターなど）<リスト化、地図による見える化>